

第4節 分析に基づくメッセージ

●既修者の方へ

上記の分析結果によると、既修者の場合、全免を取ることが出来るようにロースクールの勉強を頑張るといことが一つの目標となる。もちろん、ロースクールの成績を上げるためだけの勉強をしても意味がないことは言うまでもないが。

また、新卒で合格することが出来なかったとしても、複数回の受験で合格している修了生が多くいることも図表から明らかである。自己分析や過去問分析を十分に行い、方向性を間違えずに勉強をすれば合格することが可能な試験であることを忘れないでほしい。

●未修者の方へ

未修者の場合でも、成績上位者は半分以上が合格している。出来ればGPA 2.7以上に入ることが望ましい。未修者の全免ボーダーライン層は既修者の場合と異なり、高い合格率を残すことはできていない。既修者と同じ全免でありながら合格率に40%もの開きが生じているのはなぜなのか。既修者であった私が推測するに、この原因は講義・演習のための勉強に終始しているからではないかということである。未修者の方々は先輩たちから講義ノートを受け継いでいるようで、それを使って講義や演習に参加しているのをよく見かけた。また、期末試験の過去問や出題教授の分析を熱心に行っており、期末試験の出題の趣旨を捉えた答案を作成することが出来ているのだろう。この努力自体は司法試験合格にも通じるものがあり否定はしない。しかし、高いGPAを修めることに終始して、司法試験とリンクした学習をしていないのではないかということが危惧される。講義や演習で得たものを司法試験の勉強に活かし、司法試験の勉強で得たものを講義や演習に活かす。両者は車の両輪のような関係なのであり、講義や演習だけで活躍しても自己満足に過ぎない。全免を取っているとしても、慢心せずに勉強をして欲しい。我々は「司法試験受験生」である以上、司法試験に受からなければ意味がない。

●GPA 2.2以下の方へ

上で示した図表によれば、GPA 2.2以下（つまり全免ではない人たち）の合格率は極めて低い。そのため愕然としてしまった在学生・修了生もいるだろう。だが、諦めるのはまだ早い。私は最終合格を果たすことができたが（合格までに3回かかってしまったが）、GPAは1.75しかなかったからである。

修了生にとってはもうGPAを変えることはできない。しかし、今後の勉強方法によって成績は向上しうる。合格者の合格ノウハウを凝縮したこの「リバイブル」を活用して、諦めずに勉強を続けてほしい。

●入学予定者および大学学部生の方へ

関大ロースクールの全体合格率は、おおよその全国平均である25%を例年下回っているため、不安に感じるかもしれない。しかし、それはあくまでも既修・未修を合わせた全受験者の数字であって、必ずしも皆さんの合格率と直結して考えるべきものではない。

上記の図表からも明らかなように、GPAの高い成績上位者になれば上位ロースクールにも匹敵する合格率をマークしているのだから、要は自分の努力次第ということになるだろう。

もちろん、GPA 2.7以上を修めることは容易ではない。そのため、学部生のころから予備試験にも挑戦して高いモチベーションを維持しつつ、ロースクール入学時には全免を取って成績上位者のクラスに入ることが合格への1つの目安になるだろう。

関大の充実した施設に強力なバックアップ体制を活かすも殺すもあなた次第。全体の合格率に惑わされずに、自己研鑽に励んでほしい。

その際、以下の講義紹介とその活用法を大いに参考にして欲しい。